

# 放射線科

診療放射線技師長 高木 卓

## 1 部門目標

- ・モダリティの基礎知識の向上。
- ・救急患者への対応強化。
- ・新病院に向けた画像診断機器の情報収集。

## 2 業務体制・スタッフ

令和6年10月までは、日勤業務と夜間業務（準夜・深夜勤、当直）1名、休日業務（日直）1名の体制で業務を行っていたが、11月からは夜間・休日の救急患者増加に対応するため、土日祝日を含め完全2交替勤務へ移行した。また、これまでと同様に、夜間・休日には待機者1名を配置し、緊急カテーテル検査等にも対応している。

この体制のもと、一般撮影室2室、CT室1室、X線テレビ室2室、乳房撮影室1室、MRI検査室1室、血管撮影室2室、核医学検査室1室、ポータブル撮影装置3台、手術室イメージ2台、リニアック1台、治療用CTシミュレータ1台を運用している。これらの検査・治療は、常勤診療放射線技師19名、非常勤診療放射線技師2名（会計年度任用職員）、受付業務3名（会計年度任用職員）の計24名で対応している。

## 3 業務実績

	令和4年	令和5年	令和6年	率(R5→R6)
CT	9,482	10,403	11,181	7.5%
MRI	2,697	3,012	3,295	9.4%
核医学検査	206	204	194	-4.9%
血管撮影	660	740	725	-2.0%
乳房撮影	695	662	681	2.9%
一般撮影(他)	26,047	26,827	28,096	4.7%
合 計	39,787	41,186	44,172	7.3%

## 4 1年間の総括

令和6年度の総検査件数は44,172件で、前年度に比べ2,986件(+7.3%)の増加となった。各モダリティ別の検査件数は、CT:11,181件、MRI:3,295件、核医学検査:194件、血管撮影:725件、乳房撮影:681件、一般撮影(他):28,096件で、令和5年度と比較して、CT:778件増(+7.5%)、MRI:283件増(+9.4%)、核医学検査:10件減(-4.9%)、血管撮影:15件減(+2.0%)、乳房撮影:19件増(+2.9%)、一般撮影(他):1,269件増(+4.7%)であった。

検査数増加の要因としては、救急科患者数の増加、脳神経外科における頭部CT・MRI検査件数の増加、整形外科医師1名増員に伴う一般撮影件数の増加などが挙げられる。また、令和6年7月より心臓血管外科における腹部大動脈ステントグラフト内挿術が再開されたこと、さらに整形外科手術数の増加により術中透視検査件数も増加した。

医療機器整備としては、7月に一般撮影用乳幼児撮影台をオートシステム社製 Cometに更新した。操作性に優れ、乳幼児の固定性が高く、安全な検査実施に寄与している。また、令和7年3月には移動型エックス線透視装置として HOLOGIC 社製 Insight-FD を手術室に導入した。Insight-FD は末梢骨専用の高精細フラットパネルディテクタを搭載し、従来の汎用透視装置より高画質な画像が得られることで、手術精度の向上と被ばく低減に貢献している。

## 5 今後の目標

令和7年度は新病院開院に向けて診療科の機能強化が予定されている。救急科医師の増員により救急車受入件数の増加が見込まれ、整形外科では脊椎関連の検査・手術件数の増加が予想される。これに対応するため、安全な検査実施を目的としたマニュアル整備を含め、検査環境の充実を図る予定である。

また、放射線科関連医療機器の購入が本格化することから、病院局と連携し新病院整備計画に沿った機器選定を進めるとともに、計画的な購入および既存機器の移設計画を立案・実施する。

さらに、令和8年秋の新病院開院に向けて、最新の検査機器・検査技術習得のため学会・研究会への積極的な参加を推進し、放射線科スタッフの教育・研修計画を策定することで、新病院での診療体制確立に備える。